

猪瀬戸湿原

成り立ち

猪瀬戸湿原は、鶴見岳(1374m)と由布岳(1583m)の間、標高 700 メートルに位置し、西側には城島高原があります。この湿地は、独特の気候条件によって形成されました。特殊な立地と地質構成、また年間降水量が多いため、地表の下に、ミネラル豊富な地下水が溜まります。猪瀬戸では、この低地一帯に地下水が湧き出し、植物や動物の生態に富んだ湿地帯環境を作っています。

人が猪瀬戸湿原に関与することで、この地域の特徴的な草原が保存されています。木切りや、日本語で野焼きと呼ばれる意図的な焼き払いなど、人が介入にすることによって、湿地は積極的に維持されています。1950 年代の写真を見ると、この地域全体が草原でした。しかし、農村人口や農業活動が減少したため、木々が侵入し、森林の部分が増えました。最近、猪瀬戸湿原を再生し、森林化を逆転させる活動が行われています。

1970 年、猪瀬戸エリアをゴルフリゾートとして開発する計画が持ち上がりましたが、由布の住民が湿原の多様な生態系を守りたいと願い、開発に反対して、計画は中止されました。現在、この場所は日本の重要湿原として、国立公園の中で積極的に管理、保護されています。